

地域課題の解決に向けた取組

地域ぐるみで育てる未来の林業の担い手

上川北部森林管理署

はじめに

当署は上川総合振興局管内の2市5町1村を管轄しています。地域の森林面積は、約32万4千ヘクタールあり、その内当署が管轄する国有林は約16万4千ヘクタールと約5割を占めています。地域の人工林は約8万8千ヘクタールあり、その多くが利用期を迎え、資源の循環利用に向けた様々な取組を地域一体となって進めているところです。

地域の課題

森林資源が人工林を中心に利用期を迎える一方、地域の林業労働者数はほぼ横ばい、年齢構成は約3割が60歳以上と高齢化が進んでおり、適切な森林整備と地域の活性化や雇用の拡大のために、将来にわたり安定的に担い手を確保することが地域の課題となっています。

課題解決に向けた取組

この様な状況の中、当署においては、地域の関係者と連携し、未来の林業の担い手となる人材の育成及び確保を目的に、平成28年度から旭川農

業高等学校森林科学科の生徒を対象に、下川町有林や町内の施設を活用した担い手育成プログラムを展開しています。また、この取組を将来にわ

たり継続的かつ長期的な取組とするため、下川町、旭川農業高等学校、上川総合振興局北部森林室及び当署の4機関で「連携と協力に関する協定」を締結しています。

生徒は在学中の3カ年の間に、植栽から下刈り、除伐等



4機関による協定の締結

の保育作業、間伐や主伐等の森林施業実習とインターンシップを通じて、「森林資源の循環利用」を一体的に学べるよう取り組んでいます。担い手の育成を目的としていることから「施業体験」で終わることなく、体力的、技術的な

厳しさや安全管理など、できるだけ林業の現場や、仕事の実情を学ぶことが可能な内容となっています。



下刈り作業の実習

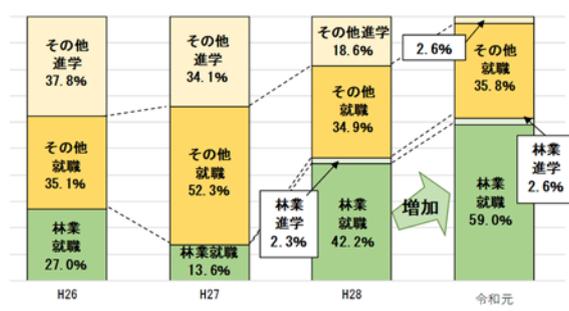
これまでの成果

連携協定の取組が生徒たちの進路にどれだけの影響を与えられているのか調査するため、協定締結前の生徒（平成26年度～平成28年度）と締結後、実習を3年間受けた生徒（令和元年度）の就職状況を比較したところ、実習開始前3年間では林業・林産業関係への就職率は最大でも約4割だったものが、担い手育成プログラムにより実習を3年間継続して受けた世代は約6割まで増加しています。この取組が林業への関心を

持つきっかけとなり、進路選択に大きな影響を与えたと考えられます。

今後の取組

この取組をより効果的なものにするため、ドローンや最先端技術といった生徒の興味のある内容を検討するとともに、林業に積極的な地域に向けてこの取組の水平展開を図り、北海道全体として林業労働者の一層の確保につなげていければと考えており、引き続き関係機関で連携して取組を進めていくこととしています。



就職状況